

白浜町周辺 歌碑・句碑めぐりマップ

歌碑



① 昭和天皇の歌碑【昭和天皇】

『雨にけふる神島を見て
紀伊の国の生みし南方熊楠を思ふ』

昭和天皇が昭和37年白浜町行幸の際、宿の屋上から雨に煙る田辺湾を見下ろしたときに、かつて神島に上陸して南方熊楠と生物の研究をしたことを回想して詠まれたものです。南方熊楠記念館のある山の上、田辺湾を見下ろすところにあります。

④ 憲吉の歌碑【中村憲吉】

『紀の国の温泉（いでゆ）の濱に児をつれ来
はな董摘むも冬と思わず』

アララギ派の歌人で、この歌は昭和2年、白浜に滞在した折にたくさん詠んだ歌の中の一首です。浜通りから白良浜中心に向かって入ったところにあります。

② 瀬戸の歌碑【万葉集から】

『牟婁の浦の瀬戸の崎なる鳴嶋の
磯越す浪に濡れにけるかも』

万葉集第十二卷三一六四に記されている歌です。本覚寺の近くの県道沿い、海側にあります。

⑤ 西行の歌碑【西行法師】

『波寄する白良の浜の烏貝
拾ひやすくも思ほゆるかな』

白良浜に沿う浜通りから白良湯の方に入ったところにあります。

③ 人麻呂の歌碑【柿本人麻呂】

『風莫（かざなし）の浜の白浪いたつらに
ここに寄せ来る見る人無しに』

飛鳥時代の歌人で三十六歌仙の一人です。外湯・綱の湯のむかい、交差点の角にあります。

⑥ 茂吉の歌碑【斎藤茂吉】

『ふる國の磯のいで湯にたづさはり
夏の日の海に落ちゆくを見つ』

アララギ派の歌人で、精神科医でもあります。有名な外湯「牟婁の湯」の前にあります。

白浜町周辺 歌碑・句碑めぐりマップ

句碑



① 青々の句碑【松瀬 青々】

『貝を見てあとは桔梗を眺めけり』
正岡子規の高弟で俳誌「倦鳥（ホトトギス）」を主宰しました。
本覚寺境内にあります。

② 三浪の句碑【岡本 三浪】

『桃の花古里なれば裏も行く』
岡本三浪はこの地の南家の次男で、地元有志の文学サークルの同人として活躍していました。
熊野三所神社内、神馬の像の奥にあります。

③ 其桃の句碑【三千堂 其桃】

『陽炎やうしろ山まで砂しろき』
この句碑は、其桃を偲んで建てられたものです。
白良浜に面して建っている白良荘グランドホテルの浜側通用口の近くにあります。

④ 虚子の句碑(綱不知公園)【高浜 虚子】

『白濱の牡丹桜に名残りあり』
昭和8年に虚子が熊野を巡遊した帰り、棧橋のそばの牡丹桜の大木が満開であったことを詠んだ句です。
綱不知公園の中にあります。
ここ以外にも、崎の湯の北、白良浜を見渡すことのできる海辺に虚子の句碑があります。

⑤ 溪花坊の句碑【本田 溪花坊】

『雲に聳ゆる神の国梅かをる』
溪花坊は大阪の柳人で、門下である白浜の水上市柳堂が師に請うて建てたもので、珍しい川柳の句碑です。
浜通りから銀座通りを上がっていった山王神社の境内にあります。

⑥ 塊亭の句碑【松尾 塊亭】

『目に立つや白良の濱に鳥二羽』
文化5年(1808年)に白浜に来たときに詠まれた句です。
浜通りの白浜エネルギーランドの少し南、道路わきにあります。

⑦ 湊太夫の句碑【豊竹 湊太夫】

『陽炎やうしろ山まで砂しろき』
四代豊竹湊太夫は湯治のため、白浜町湯崎に来ていました。請われて浄瑠璃を指導していましたが、この地で没しました。
湯崎バス停から坂道を上がっていった金徳寺境内にあります。

⑧ 山口誓子の句碑(むろべ)【山口 誓子】

『炎下に清流熱き湯なれども』
炎天下に沸騰した温泉が清流となってあふれ出る様に感動して詠んだ句です。
「南紀白浜湯処むろべ」の駐車場入り口にあります。
ここ以外にも、「とれとれ市場」の東に堅田漁協があり、この白珠寮の敷地に誓子の句碑があります。